

平良市史

第一卷通史編I
(先史～近代)

平良市史

第一卷通史編I
(先史～近代)

平良市史

第一卷
通史編I

先史と近代編

一九七九年 十二月十日 印刷

一九七九年 十一月三十日 発行

編集 平良市史編さん委員会

発行 平良市役所

〒906 沖縄県平良市西里一八六番地

印刷 (株) 丸正印刷社

〒902 沖縄県那覇市国場三四九-三

工事が急速に進められ、多数の老若男女が作業に動員され、更に陸軍部隊が次々進駐して、街にカーキ色が氾濫するようになって、一般郡民の間には次第に戦局の前途に容易ならざるものを感じするようになった。

一九四四（昭和十九）年五月に、下地村与那覇の西陸軍飛行場、同野原の陸軍中飛行場建設が開始された。これは防謀上も緊急な工事で、八月以降は飛行場設営隊（玉木少佐）も投入され、昼夜兼行の突貫作業が強行された。しかし機動力がなく、ツルハシとスコップ、モッコという非近代的な作業のため、工事の進捗は思わしくなく、学童までも動員されている。そして十月五日には一応の完成を見た。

西陸軍飛行場は一二五〇メートルの滑走路と五キロの誘導路、二十八個の駐機場があったが、雨あとのぬかるみや、正面に來間島を控えて地形上の離点があり、ほとんど使用されなかった。この西飛行場に関しては、『宮古島建築兵始末記』（野口退蔵著）の中で、「西飛行場は出来上ったが、ぬかるみと風向きの悪さ、それに正面に來間島が、台湾を縮めた格好で控えていて、飛行機の発着には不便だった」と述べている。

中陸軍飛行場は、宮古島の中心部に位置し一七〇〇メートルの滑走路（東）と二四〇〇メートルの滑走路（西）六キロの誘導路、二十五の掩体がつくられたが、その後も建設作業は進められ、十一月に警備召集された、特設工兵第五〇五大隊は、その主力となり、作戦道路の建設や空襲時の機能維持の任務についた。宮古島防衛の要点となった中飛行場の建設状況について、要塞建築第八中隊の野口退蔵はその著書『宮古島建築兵始末記』の中で、次のように述べている。

師団は中飛行場に全力を投入した。輸送やその連絡で夜おそく飛行場へいっても、昼間以上に物凄い爆破や穴あけ作業が雨中でも狂気のように続けられていた。V型滑走路の先端には、戦車の先に排土板を取付けた即製のブルドーザーがうなり、その中間には砂利を敷く白鉢巻姿の女学生の一群もあり、特設警備隊とか称する島民召集の不揃いの服を着た一団があり、それぞれの特技をそれぞれの作業に發揮していた。平良のまちの石塚（どの家も屋敷の囲りには軒の高さまで石を積んで風を防いでいる）は崩されて五六六部隊（輜重兵連隊）の自動車で滑走路に敷きつめられていた。平良の街の人達が「ゴ

ロゴロさんは始末におえぬ」…と反対と悪口をいった。

宮古守備

宮古島防衛に最初に配備されたのは、独立混成第四十五旅団（宮崎武之少将）であった。これは第三十

隊の展開

二軍から先島守備隊として下命されたもので、主力は宮古島におかれた。一九四四（昭和十九）年六月二十二日に到着した宮崎旅団長は、平良町西里の宮古郡織物工業組合に司令部をおき、すでに進駐していた第二〇五飛行場大隊、要塞建築第八中隊、それに特設警備第二〇九、同二一〇中隊を指揮下におくと共に、旅団主力の到着をまつた。ところが、六月中旬頃九州、四国地区で編成を終えた主力の混成第四十五旅団（外に同四十四旅団、宮古島陸軍病院要員、兵器廠勤務隊、第二百二十九飛行場設定隊など四千六百名）は富山丸（七〇八九トン）で鹿児島港を出発して輸送途中、米潜水艦の雷撃を受けて沈没、うち二千七百名が遭難死、指揮官のほとんども死没するという損害を受けた。このため先島の兵力配備計画はやり直しとなり、同年八月二十二日には宮崎旅団長は八重山地区防衛へ転出した。次いで第二十八師団（在チチハル・豊部隊）と独立混成第五十九旅団（碧部隊）同第六十旅団（駒部隊）が、次々と第三十二軍隷下に入り、宮古島守備隊として配備されるようになった。

第二十八師団は、昭和十五年七月、第一師団、第二師団、第九師団から歩兵一個連隊と特科部隊（砲、工、輜、騎）の基幹要員を抽出し、内地から兵員を補充して編成された新設師団で、根幹の歩兵部隊は歴戦の第三、第三十、第三十六の各連隊、砲兵は山砲連隊を有し、当時としては日本陸軍の精鋭師団の一つとして、対ソ戦に備えハルピンに駐留していた。師団の先遣隊として福地春男参謀長（大佐）が、昭和十九年七月七日に宮古島に到着し、県立宮古高等学校を司令部にあてて作戦準備に取かかった。榎淵鎭一師団長（中将）は陸路参謀らを帯同して七月二十日に宮古島の司令部入りをした。

師団の宮古島転用にともない指揮下の騎兵第二十八連隊（隊長上田巖大佐）は、釜山―鹿児島―沖縄と輸送の困難を克服して八月二十二日宮古島に到着、中地区の配備につく。

10・5	宮古商工会、沖縄県商工経済会設立のため解散決議する（公会堂建設基金一百万円は国防費として献金）。	10・15	狩俣部落、標準語・礼法の優良部落として県から表彰される。
10・	七原・屋原・クイズの軍用飛行場用地接収はじまる（一九四四年5・）。	10・	宮古商工会『宮古商工会二十年のあゆみ』刊
11・15	七〇九五部隊、下地小七教室を借用訓練する。	11・1	宮古島測候所、文部省から運輸通信省へ所管がえとなる（一九四五年5・18運輸省に改組）。
この年、	秋から末にかけて貨客船嘉義丸（二五〇九トン）・湖南丸（二六六四トン）・奄美大島近海で米潜水艦に撃沈される。	11・27	宮古郡教育部会「故大舛松市大尉遺烈顕彰式」催す。
1・17	第一〇代平良町長に石原雅太郎なる。	12・25	宮古郡教育部会「模型飛行機」講習会ひらく（平良第一小）。
3・22	南西諸島に大本営直轄の第三十二軍新設され、沖縄防衛本格化する。	4・26	当銘由金郡視察「決戦教育・運営」について教師対象に各学校で講演する。
3・20	第三十二軍司令官渡辺正夫中将、先島視察に来郡する。	4・29	平良町役場、出征軍人家族懇談会催す（平良第二小）。
4・6	池間漁船六隻ボルネオから石油を運送する（6・13歓迎会）。	5・8	平良第二国民学校、軍の使用はじまる。
4・	大舛久雄八重山支庁長へ転出にともない納戸糸吉宮古支庁	5・11	下地国民学校、軍に接収される（一部授業・一部林間授業）。
		5・20	新里国民学校、軍に接収される
			⑨イタリア無条件降伏
			⑩蔣介石、国府首席に就任
			⑪生徒出陣
			⑫徴兵令一年引下げ
			⑬中学生の勤労動員
			⑭大都市の学童集団疎開
			⑮中央公論・改造に廃刊命令
			⑯小磯内閣成立
			⑰米軍サイパン島占領
			⑱砂糖の家庭用配給停止
			⑲学徒勤労令・女子挺身勤労令公布
			⑳閣議一億総武装決定

5・5	要塞建築第八中隊岸川善二大尉らおよそ一〇〇人宮古入り。	5・27	宮古郡青少年団「士気高揚弁論大会」催す（新世界）。
5・8	第二〇五飛行場大隊吉岡軍一朗大尉らおよそ五〇〇人宮古入り。	6・11	郡内各学校、日曜日の出校は正規の授業として取扱う。
5・14	船舶参謀八坂繁広少佐、宮古を視察する。	6・15	平良の街に午後五時半警戒警報発令、翌日午前二時空襲警報発令される（敵機来襲なく午前五時解除）。
5・15	航空参謀釘宮 中佐、宮古を視察す。	6・15	平良の街に午後五時半警戒警報発令、翌日午前二時空襲警報発令される（敵機来襲なく午前五時解除）。
5・16	衆議院議員補欠選挙おこなわれる。	6・	郡内各国民学校で「青少年兵志願隊」結成される。
5・	宮古西（陸軍）飛行場建設はじまる。	7・1	平良第二国民学校四教室、軍に接収される（9・2）全教室接収・御獄等で分散授業）。
6・12	渡辺第三十二軍司令官、再び宮古を視察する。	7・19	城辺国民学校七教室、軍に接収される（9・14）全教室接収）。
6・29	宮古島守備兵員四六〇〇人乗組の富山丸徳之島東沖で撃沈され三七〇〇人死ぬ。	7・28	西辺国民学校二教室並に家事室、軍に接収される。
6・	宮古中（陸軍）飛行場建設はじまる（10・5完成）。	8・18	平良第一・第二・下地三校児童九州疎開へ出発（9・1宮崎県小林町着）。
6・30	第二十八師団、第三十二軍に編入される。	9・14	伊良部国民学校全教室、軍に
7・7	政府、奄美・徳之島・沖縄・宮古・石垣から七月中に老幼		
			⑨米軍、グアム・テナン島占領
			⑩満十八才以上兵役編入
			⑪神風特別攻撃隊編成

婦女子八万人を本土へ、二万人を台湾へ疎開させるよう命令する（翌一九四五年3月までに全県で約六万人が九州へ、二万二〇〇〇人が台湾へ疎開しうち宮古は約一万人）。第二十八師団参謀長福地春男大佐宮古着任、県立宮古高等女学校を司令部にあてる（師団長楠淵鎧一中将着任）。7・7 大本営参謀長勇少将、先島防衛準備のため宮古入り。8・11 第三十二軍司令官牛島満中将参謀長長勇少将、沖繩に着任する。9・4 第三十二軍参謀長長勇少将、参謀はせ山徹夫宮古島飛行場視察する。9・5 沖繩海軍根拠地隊宮古派遣隊、宮古島海軍警備隊に改称される。9・17 第三十二軍司令官牛島中将、高級参謀八原博道大佐ら第二十八師団巡視に宮古入り。11・18 宮古出身者約八百人警備召集される（特設警備五〇五大隊）陸路参謀・青木県議ら軍民連

10・10 那覇・平良・石垣など初めて米軍の空襲を受ける（十・十空襲、宮古は午前七時三〇分、八時一五分のべ一六機のグラマン来襲、午後一時五分にも来襲、主として飛行場と漲水港碇泊中の船舶を空襲、大神島は死者三人・住家一三軒焼失。午後三時四〇分、四時一〇分、米空軍二度めの宮古空襲。石原雅太郎平良町長・砂川恵知下地村長・友利清祐城辺村長らは疎開者慰問のため台湾へ出発する。11・1 郡内各国民学校「御真影・勅語騰本」等宮古中学校に移される（2野原越の「奉遷所」に移し毎日男教員交替で当番）年内三回めの米軍空襲、艦戦機十数機主に海軍飛行場をおそう。12・8 軍慰安の学芸会催される（伊良部小）

接収され、民家で分散授業は始める（一九四五年3・28接収解除）。
 ①本土決戦等戦争指導大綱決定
 ②ヤルタ会談
 ②米機動部隊本土初空襲
 ②硫黄島全滅
 ③国民勤労動員令公布
 ③学校授業一年間停止
 ④鈴木貫太郎内閣成立
 ⑤ドイツ軍、無条件降伏
 ⑥国民義勇兵法公布
 ⑧米軍、広島に原爆投下
 ⑧米軍、長崎に原爆投下
 ⑧ポツダム宣言受諾
 ⑧終戦

一九四五

二〇 乙西

12・22 緒懇談会「七日会」発足させる。12・23 第三十二軍長参謀長ら迎え宮古島防禦作戦大綱決まる。12 宮古群島守備の兵力ほぼ展開終る。（陸軍二万八〇〇〇人・海軍二〇〇〇人・計三万余人）。1 島田叙、第二七代知事となる（31着任）。1 第二十八師団長楠淵中将、漢口第三十四軍司令官に転出する（16後任の納見敏郎中将着任）。1 閣議「沖繩県防衛強化実施要綱」決定する。2 第二十八師団参謀長福地少将転出、後任一瀬寿中佐発令される。2 島田知事、決戦施策の三大目標（国土防衛の強化・食糧自給の達成・自主輸送の確立）を発表する。3 沖繩群島、米軍の艦砲射撃つける。3 米軍、慶良間諸島に上陸する。

1 3、6、8、9、21、22、24、25 宮古は空襲または警報つづく（七月まで連日空襲あるいは空襲警報発令のため多くの学校は卒修了式・入学式無期延期）。2 5、8、13、16、18、23、24 宮古は空襲あるいは警報発令つづく。3 1、3、5、7、9、10、12、13、22、31 宮古は空襲あるいは空襲警報つづく。3 数百機による大爆撃、宮古全域にわたって被害つける。3 県立宮古高等女学校、空襲のため卒業式とりやめ証書等は個別に手交する。4 1、15、20、27、29 宮古は空襲あるいは空襲警報つづく。

①本土決戦等戦争指導大綱決定
 ②ヤルタ会談
 ②米機動部隊本土初空襲
 ②硫黄島全滅
 ③国民勤労動員令公布
 ③学校授業一年間停止
 ④鈴木貫太郎内閣成立
 ⑤ドイツ軍、無条件降伏
 ⑥国民義勇兵法公布
 ⑧米軍、広島に原爆投下
 ⑧米軍、長崎に原爆投下
 ⑧ポツダム宣言受諾
 ⑧終戦

4・1	米軍、北谷村渡具知浜に上陸する。	4・4	宮古島測候所戦災で二重越に移り海軍気象隊に協力、のち二班に分れ陸軍気象隊にも協力する(8・23本庁舎に復帰)
4・5	米海軍、読谷村比謝に軍政府樹立、布告第一号発布する。	4・9	平良の街は中央部から北西部方面へかけて焼失する。
4・16	米軍、伊江島に上陸、ついで本部半島を制圧する(18)。	5・3	4、12、14、27 宮古は空襲あるいは空襲警報つづく。
4・26	米太平洋艦隊司令官ニミッツ提督、宮古島攻略作戦の無期延期を指令する。	5・4	英太平洋艦隊、宮国沖から宮古島を艦砲射撃する(軍艦一八隻三八五発撃ちこむ)。
6・2	宮古出身者の防衛召集強化される。	5・24	『沖繩新報』この日まで発刊以後停刊となる。
6・10	米軍司令官バックナー中将、牛島中将に降伏を勧告する。	6・6、24	宮古は空襲あるいは警報発令される。
6・18	このころ島田知事・荒井警察部長ら消息を絶つ。	6・17	平良町から伊良部村へ疎開はじまる。(19、23、24、29の五回)。
6・23	第三十二軍司令官牛島満・参謀長長勇、摩文仁で自決―沖繩戦終了する。(一般県民九万四〇〇〇人・将兵九万四一三六六人・米軍将兵一万二八八一人・総計二〇万余人死ぬ)。	7・13	西辺国民学校、昭和二十年度入学式おこなう。
7・2	米軍、琉球作戦終了を宣言する。	8・1	新里国民学校、昭和二十年度入学式・始業式おこなう。
8・15	終戦	8・5	平良第二国民学校、昭和十九年度卒・修了式盛加御嶽でおこなう(8・12添道・下崎・成川)

平良市史編さん委員会委員

(一九七九年三月三十一日現在)

●学識経験者(15名)

- 委員長 宮国 定徳 平良市文化財保護審議会会長、宮古郷土史研究会会長
- 副委員長 佐渡山正吉 平良第一小学校教頭、平良市文化財保護審議会委員
- 伊志嶺 亮 伊志嶺医院院長、宮古芸術友の会会長
- 大井浩太郎 沖繩大学教授
- 岡本 恵昭 祥雲寺住職、平良市文化財保護審議会委員
- 島尻勝太郎 球陽研究会会長、沖繩県文化財保護専門委員
- 下地 馨 宮古民俗文化研究所主宰
- 下地 康夫 北中学校教諭、歴史教育者協議会会員
- 砂川 明芳 池間中学校校長、平良市文化財保護審議会委員
- 砂川 幸夫 沖繩県立図書館宮古分館長、宮古郷土史研究会事務局長
- 平良 榮賢 那覇バスターミナル総務部長
- 平良 新亮 丸平せともの店経営、平良市文化財保護審議会副会長

●平良市議会議員(5名)

- 石垣 義夫 革新クラブ所属
- 伊波 幸夫 新緑会所属
- 塩川 恵勇 公明党所属
- 下地 栄 自民クラブ所属
- 饒平名恵真 自民クラブ所属

●平良市職員(5名)

- 安谷屋玄信 平良市助役
- 池間 昌六 平良市企画室長
- 松原 清吉 平良市教育委員会指導課長
- 砂川 玄正 平良市教育委員会(文化財担当)
- 仲宗根将二 平良市企画室(市史担当)

○平良市史編さん室

- 奥浜 勝弘